

日本学術会議総合工学委員会主催 安全工学シンポジウム2017

安全な社会を支える人と技術

今年で第47回となる安全工学シンポジウムは、安全工学の発展と関連分野の交流を目的とし、特別講演（2講演）、パネルディスカッション、オーガナイズドセッション（19セッション、計96題）、一般講演（10セッション、計44題）を予定しています。

◆ 日時：7月5日（水）10:00～15:50、6日（木）10:30～15:40
7日（金）10:00～15:10

◆ 会場：日本学術会議（東京都港区六本木7-22-34）

[交通]東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口

主催：日本学術会議総合工学委員会、共催：安全工学会 他33学協会

特別講演 7月6日（木）

10:40～11:40 水素社会の安心・安全を支える材料評価技術
小林英男 氏（高圧ガス保安協会・東京工業大学）

12:40～13:40 生活者参加で創り出す進化適応型の社会安全
持丸正明氏（産業技術総合研究所）

パネルディスカッション・オーガナイズドセッション

PD-1 安全工学グループの創設と今後の展開
PD-2 工学システムの社会安全目標の実用化
PD-3 安全な社会を支える人と技術（連携PD）
PD-4 今求められている技術者向け機械安全の教育

OS-1 教育研究機関の環境安全教育
OS-2 機械安全の原点に戻る
OS-3 スマートグリッド構築を見据えた電気設備分野の安全安心技術
OS-4 水素利用技術の安全評価研究の動向
OS-5 ガイド50を活用する子どもの安全

OS-6 安全・安心な社会をめざして～事故防止のあり方を考える～

OS-7 i-Constructionと安全
OS-8 老朽・遺棄化学兵器廃棄の安全と環境の保全
OS-9 自動車の自動運転の現状と将来展望
OS-10 安全学の教育体系と安全資格者制度の試み
OS-11 Think Safety First again その2
OS-12 レジリエンス
OS-13 ヒューマンファクターから見た自動車の自動運転
OS-14 リスクへのセンス向上手法の研究
OS-15 経年化した地下貯蔵タンクの腐食対策

問い合わせ先：安全工学シンポジウム2017 事務局
特定非営利活動法人 安全工学会
TEL: 03-6206-2840 FAX: 03-6206-2848
E-mail anzen2017@gakkai-web.net

事前登録不要
参加費無料

プログラム等の詳細は、<http://www.anzen.org/> をご覧下さい